

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所

〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話連絡先 0282-22-7079(増田)

Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp



217号

2025年9月26日発行

一人の記者が見続けた“教育現場”に迫る危機

齊加尚代監督「教育と愛国」の上映会 約50名参加！！

参加者の感想・・・

- ・政治がこれほどまでに教育に介入してきていることに危機感をもった。戦前の教育に逆戻りさせてはならない。
- ・教科書をみたくくなりました。参加者からの意見も聴くことが出来たことも、大変良かったです。



子どもに影響のある教科書が、国の政策によって考え方が強制されてしまうことは、子どもをもつ親だけでなく、多様な考え方を子どもから奪ってしまう危険な潮流だと思いました。これは、戦争が出来る国にするための、思考統制なのではないかと思った。



育鵬社「新しい日本の歴史」編集委員会座長、伊藤隆の存在を知ってびっくりした。この方、歴史を本当に実際あったのかを見極めていく学問、それから学ぶと語っていたのにびっくりしました。

政治家によって史実がゆがめられ、隠されていった動きに恐ろしさを痛感した（教育への政治介入）

歴史に学ぶということは、戦争の被害性と加害性を学ばなければならない。加害性に触れることがタブーであってはならないと思った。

この映画を観て、今更ながら、安倍さんは恐ろしい。



- ◆スタンディング 10月9日（木）市役所前 19日（日）栃木コープ前 16時から
- ◆スタッフ会議 10月9日（木）4Fくらら 24日（金）4Fくらら 13時30分から

「今年は戦後80年・被爆80年」という節目の年です。

この大きな節目の年に、二度と戦争はしない、核のない平和な世界の実現のためにと、とちぎ非核平和展(8月14日～17日)が、栃木文化会館にて開催されました。

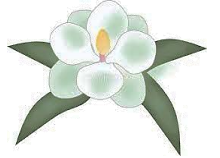
展示部門では、丸木位里・俊氏の「原爆の図」、鈴木賢二氏の版画絵巻「平和を世界に」、四國五郎／絵・絵本「おこりじぞう」などが展示室にて開催。

朗読劇「泰山木の木の下で」は、16・17日、小ホールがほぼ満席となり、上演されました。

今回、「戦後80年の夏に思う」と題し、平和への思い、非核平和展の感想など寄せていただきました。

戦後80年の 夏に思う

朗読劇「泰山木の木の下で」を鑑賞して



戦後80年という節目の年、時宣を得て、朗読劇「泰山木の木の下で」を鑑賞する機会に恵まれました。

9人の子どもを全て戦争で失ったハナさんという、一人の女性を中心にした生き方のメッセージを深く受け止めました。

戦争がもたらした様々な苦しみと痛みを違った立場の登場人物が、それぞれに強く訴えるものでした。平和らしきものにどっぷりと浸りきっている私は、ハッとさせられました。

魅力ある熱演に、琴と笛の調べ、そして白衣のダンスが奏功して朗読劇が更に迫力あるものになりました。原爆の恐ろしさを全身全霊で訴えているシーンに自然に力が入りました。

過ちは二度と繰り返しません”という広島原爆碑の誓いの言葉がありますが、唯一

戦争被爆国の我が国だからこそ、戦争回避、核兵器廃絶を訴えなければならないと思います。栃木市でも、中学生の広島派遣があり、とっても良いことだと思います。もっと多くの子どもたちに知ってもらいたいです。戦争という人間の過ちを、どう次世代に伝えていくか、考えなくてはいけないと思います。年々薄れゆく悲惨な戦争体験を繋いでつなぎ続けていかなくてはいけないのです。戦争の悲惨さを、繰り返してはならないという強い意志を育む教育も不可欠だと感じました。

朗読劇鑑賞後、併設された鈴木賢二版画を観てきました。平和を強く求め続けた作品の数々に心を打たれました。「戦争と平和」それを起こすのも、守るのも人間です。過ちは起きてからでは取り返しがつかないのです。平和の大切さを深く刻んだ一日になりました。

中島セイ子 (記)

今、思うこと



ガザやウクライナでの痛ましい戦争は3年目に突入。犠牲になっっている女性や子ども達の飢えや悲しみの映像をみて、本当に目を背けたくなくなる思いです。また、毎年8月の広島、長崎の惨状を見聞きし、絶対、二度と戦争はしてはいけないことだと思わなければならない。日々の暮らしにかまけて忘れることもありました。しかし、先日のある新聞の記事に、平和への誓いのなかで「いつかは訪れる、被爆者のいない世界」と、小学生が語ったと。また、被爆者がいなくなったら真実は伝わらないのかと中学生は思ったそうです。様々なこの現実を真剣に思い、考える小学生・中学生に感銘を受けました。

私は戦後生まれで、先の戦争で両親は辛い体験をしているのに、何も話そうとせず、聞こうともしなかったが、時々姉と、聞いておけば良かったと、今更ながら後悔もします。今は、仲間と講演会、学習会に参加していく中で理解も深まり意識して考えるようになってきました。学びは私を変えてくれました。子や孫の世代に平和の尊さを伝えていくために、願いを行動に変えていくと思うこの頃です。A・K (記)